

教科・領域等〔 外国語・外国語活動 〕

2 (2) 教科等を横断的に

小規模小学校の授業におけるコミュニケーションを充実させるための取組の工夫です。

こんな実践

外国語・外国語活動でコミュニケーションを図る授業を仕組もうとするものの、学級の児童数が少ないため、関わり合う機会を設けにくいことがあるかもしれません。ハロウィーンの時期に、中学校の英語科教員がサポートし、他教科・他領域の横断的な学習を取り入れた5、6年合同の実践です。

実践学校 B小中学校

実践時期 10, 11月

- B小学校では、「ハロウィーンフェスティバルでオリジナル人形の衣装を作って飾って、全校投票してもらおう」という目標で外国語活動の単元を仕組み、5、6年生合同で活動を行いました。



5、6年生が楽しむ様子を下級生が知り、高学年になった時にやりたい憧れの活動として楽しみに思うことを願い、全校児童で関われる活動にしました。単元のまとめには、ハロウィーン衣装や小道具を身に着けた人形のコーディネート投票を下級生にしてもらおうことにしました。



ここがポイント！

なぜ、このような単元を設定できたのでしょうか。

- ✓ B小中学校では、英語科教員が、小学校の担任が進める外国語活動の時間をサポートしていました。5、6年両方の児童を知る英語科教員が、前年度5、6年もハロウィーンを楽しんだことを知り、担任の先生たちとアイデアを共有して計画しました。

- 5、6年生が合同で学習をしていくための工夫は、次のようなものです。

①横断的な単元を計画する

外国語・外国語活動、総合的な学習の時間、図画工作の横断的な単元を計画しました。外国語・外国語活動では、アメリカのハロウィーンの様子を知ったり、活動に必要な表現に触れ、好みや願いを伝え合ったりする時間とし、主に ALT や英語科教員が計画しました。人形のハロウィーン衣装・小物製作は、学級担任が中心になって、図画工作の時間に進めました。さらに、全校児童が1番見るところに、衣装を着た人形を飾る場所を設置したいと願う5、6年生が、場所の設定や装飾の工夫などを話し合ったり、実際に作ったりする時間として、総合的な学習の時間を合同で行うようにしました。

②5、6年生が、関わり合える活動内容やグループを決める

人数が少なく、保育園の頃から大多数の児童が互いを知っていることを生かし、外国語で互いの気持ちや願いを聞き合い、伝え合うことがとても大切だと感じた担任と英語科教員は、毎時間の活動にペアの思いをたずね合うインタビュー活動を位置付けました。また、5年生が学習し、さらに中学校でも学習する「買い物」の場面を設定し、5、6年生を同じグループにして、一緒に「お店屋さん」として協力して値段を決定したり表現を教え合ったりできるような工夫をしました。



ここがポイント！

子供たちの学習意欲が継続するための工夫はどのようなものでしょうか。

- ✓ 子供たちの願いを基に、単元の目標を明確に定め、学習の開始時から全員で共有していくことです。また、小規模校でお互いをよく知っていることを生かし、授業学級以外の児童にも活動を伝え、参加してもらえる場を設けるとよいでしょう。

まとめ

- ・小規模校では、中学校と連携をして中学校の先生からアイデアをもらい、授業を充実させることができる可能性があります。
- ・5、6年など、異学年で合同授業を行うことのよさとして、上の学年が経験をふまえて内容や方法を伝えられることがあります。同じ活動であっても、リードしたいという願いが責任感を生み、1年目では味わえない取組になるでしょう。
- ・各教科・領域等を横断的に考えることで、子供同士の関わり合いがより豊かになる単元を仕組むことができます。